



UCS Manager の組織

- [マルチテナント環境の組織 \(1 ページ\)](#)
- [マルチテナント環境における階層的な名前解決 \(2 ページ\)](#)
- [ルート組織下の組織の設定 \(4 ページ\)](#)
- [非ルートの組織下の組織の設定 \(5 ページ\)](#)
- [組織の削除 \(6 ページ\)](#)

マルチテナント環境の組織

マルチテナント機能を使用すると、Cisco UCS ドメインの大きな物理的インフラストラクチャを組織と呼ばれる論理的なエンティティに分割できます。その結果、各組織に専用の物理インフラストラクチャを設けなくても各組織を論理的に分離できます。

マルチテナント環境では、関連する組織を通じて、各テナントに一意のリソースを割り当てられます。これらのリソースには、各種のポリシー、プール、および Quality of Service 定義などがあります。また、すべてのユーザがすべての組織にアクセスできるようにする必要がない場合は、ロケールを実装して、組織ごとにユーザ権限やロールを割り当てたり、制限したりすることもできます。

マルチテナント環境をセットアップする場合、すべての組織は階層的になります。最上位の組織は常にルートです。ルートに作成したポリシーおよびプールはシステム全体にわたるもので、このシステムに含まれるすべての組織で使用できます。しかし、他の組織で作成されたポリシーやプールを使用できるのは、同じ階層でそれより上にある組織だけです。たとえば、あるシステムに Finance と HR という組織があり、これらは同じ階層に存在しないとします。この場合、Finance は HR 組織にあるポリシーは一切使用できず、また、HR は Finance 組織にあるポリシーには一切アクセスできません。しかし、Finance と HR は両方とも、ルート組織にあるポリシーやプールを使用できます。

マルチテナント環境に組織を作成する場合、各組織、または同じ階層のサブ組織に次のうち 1 つ以上をセットアップすることもできます。

- リソース プール
- ポリシー

- サービス プロファイル
- サービス プロファイル テンプレート

ルート組織は、常にトップ レベルの組織です。

マルチテナント環境における階層的な名前解決

マルチテナント環境では、Cisco UCS は組織の階層を使用して、ポリシーおよびリソース プールの名前を解決します。Cisco UCS Manager は、プールに割り当てられているポリシーまたはリソースの詳細を検索する際に、以下の操作を実行します。

1. Cisco UCS Manager は、サービス プロファイルまたはポリシーに割り当てられている組織内で、指定された名前のポリシーとプールの有無を調べます。
2. ポリシーが検出されるか、使用可能なリソースがプール内に存在する場合、Cisco UCS Manager はこのポリシーまたはリソースを使用します。ローカル レベルで使用可能なリソースがプール内に存在しない場合、Cisco UCS Manager は上位階層の親組織に移動し、同じ名前のプールを検索します。Cisco UCS Manager では検索がルート組織に到達するまでこの手順を繰り返します。
3. 検索がルート組織まで到達し、使用可能なリソースまたはポリシーが検出されない場合、Cisco UCS Manager はローカル組織に戻り、デフォルト ポリシーまたはデフォルト プール内で使用可能なリソースの検出を開始します。
4. 適用可能なデフォルト ポリシーまたは使用可能なリソースがデフォルト プール内で検出されると、Cisco UCS Manager はこのポリシーまたはリソースを使用します。使用可能なリソースがプール内に存在しない場合、Cisco UCS Manager は上位階層の親組織に移動し、デフォルトのプールを検索します。Cisco UCS Manager は検索がルート組織に到達するまでこの手順を繰り返します。
5. Cisco UCS Manager は、適用可能なポリシーまたは使用可能なリソースを階層内で検出できない場合、割り当てエラーを返します。

例：単一階層でのサーバ プール名の解決

この例では、すべての組織がルート組織下の同一レベルにあります。たとえば、サービス プロバイダは、各顧客に対して個別の組織を作成します。この構成では、組織は、自身の組織およびルート組織に割り当てられたポリシーおよびリソースにのみアクセスできます。

この例では、XYZcustomer 組織のサービス プロファイルは、XYZcustomer サーバプールのサーバを使用するように設定されています。リソースプールとポリシーがサービス プロファイルに割り当てられると、以下の動作が発生します。

1. Cisco UCS Manager は、XYZcustomer サーバプール内で使用可能なサーバを調べます。

2. 使用可能なサーバが XYZcustomer サーバプールに存在する場合、Cisco UCS Manager はこのサーバとサービス プロファイルを関連付け、検索を終了します。プール内に使用可能なサーバが存在しない場合、Cisco UCS Manager はルート組織で同じ名前のサーバの有無を調べます。
3. ルート組織に XYZcustomer サーバプールが含まれており、そのプールに使用可能なサーバが存在する場合、Cisco UCS Manager はこのサーバとサービス プロファイルを関連付け、検索を終了します。プール内に使用可能なサーバが存在しない場合、Cisco UCS Manager は XYZcustomer 組織に戻り、デフォルトのサーバプールを調べます。
4. XYZcustomer 組織内のデフォルトプールに使用可能なサーバが存在する場合、Cisco UCS Manager はこのサーバとサービス プロファイルを関連付け、検索を終了します。デフォルトプールに使用可能なサーバが存在しない場合、Cisco UCS Manager はルート組織内でデフォルトのサーバプールを調べます。
5. ルート組織内のデフォルトサーバプールに使用可能なサーバが存在する場合、Cisco UCS Manager はこのサーバとサービス プロファイルを関連付け、検索を終了します。デフォルトプールに使用可能なサーバが存在しない場合、Cisco UCS Manager は割り当てエラーを返します。

例：多階層でのサーバプール名の解決

この例では、各組織に少なくとも 1 つのサブ組織が含まれています。たとえば、企業は、企業内の各主要部門に対しておよびこれらの部門のサブ部門に対して組織を作成できます。この構成では、各組織が、自身のローカルポリシーとリソースプール、および親階層内のリソースプールにアクセスできます。

この例では、Finance 組織に 2 つのサブ組織 (AccountsPayable および AccountsReceivable) が含まれています。AccountsPayable (AP) 組織のサービス プロファイルは、AP サーバプールのサーバを使用するように設定されています。リソースプールとポリシーがサービス プロファイルに割り当てられると、以下の動作が発生します。

1. Cisco UCS Manager は、サービス プロファイルに定義されている AP サーバプールで使用可能なサーバを調べます。
2. 使用可能なサーバが AP サーバプールに存在する場合、Cisco UCS Manager はこのサーバとサービス プロファイルを関連付け、検索を終了します。プールに使用可能なサーバが存在しない場合、Cisco UCS Manager は 1 階層上位に移動し、Finance 組織で同じ名前のプールの有無を調べます。
3. Finance 組織に同じ名前のプールが含まれており、このプールに使用可能なサーバが存在する場合、Cisco UCS Manager はこのサーバとサービス プロファイルを関連付け、検索を終了します。プールに使用可能なサーバが存在しない場合、Cisco UCS Manager は 1 階層上位に移動し、ルート組織で同じ名前のプールの有無を調べます。

4. ルート組織に同じ名前のプールが含まれており、このプールに使用可能なサーバが存在する場合、Cisco UCS Managerはこのサーバとサービスプロファイルを関連付け、検索を終了します。プールに使用可能なサーバが存在しない場合、Cisco UCS ManagerはAccountsPayable組織に戻り、デフォルトのサーバプールを調べます。
5. AccountsPayable組織内のデフォルトプールに使用可能なサーバが存在する場合、Cisco UCS Managerはこのサーバとサービスプロファイルを関連付け、検索を終了します。デフォルトプールに使用可能なサーバが存在しない場合、Cisco UCS Managerは1階層上位に移動し、Finance組織のデフォルトのサーバプールを調べます。
6. Finance組織内のデフォルトプールに使用可能なサーバが存在する場合、Cisco UCS Managerはこのサーバとサービスプロファイルを関連付け、検索を終了します。デフォルトプールに使用可能なサーバが存在しない場合、Cisco UCS Managerは1階層上位に移動し、ルート組織のデフォルトのサーバプールを調べます。
7. ルート組織内のデフォルトサーバプールに使用可能なサーバが存在する場合、Cisco UCS Managerはこのサーバとサービスプロファイルを関連付け、検索を終了します。デフォルトプールに使用可能なサーバが存在しない場合、Cisco UCS Managerは割り当てエラーを返します。

ルート組織下の組織の設定

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope org /	ルート組織モードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /org # create org <i>org-name</i>	ルート組織下に選択された組織を作成し、指定した組織で組織モードを開始します。 (注) ある組織モードから別の組織モードに移るとき、コマンドプロンプトは変更されません。
ステップ 3	UCS-A /org # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次の例は、root 組織の下に Finance という名前の組織を作成し、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# scope org /
UCS-A /org # create org Finance
UCS-A /org* # commit-buffer
UCS-A /org #
```

非ルートの組織下の組織の設定

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope org /	ルート組織モードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /org # scope org <i>org-name</i>	指定した組織の組織モードを開始します。 (注) ある組織モードから別の組織モードに移るとき、コマンドプロンプトは変更されません。
ステップ 3	UCS-A /org # create org <i>org-name</i>	事前設定された非ルート組織下に選択された組織を作成し、指定した組織で組織モードを開始します。
ステップ 4	UCS-A /org # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次の例は、NorthAmerica 組織の下に Finance という名前の組織を作成し、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# scope org /
UCS-A /org # scope org NorthAmerica
UCS-A /org # create org Finance
UCS-A /org* # commit-buffer
UCS-A /org #
```

組織の削除

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope org /	ルート組織モードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /org # delete org <i>org-name</i>	指定した組織を削除します。
ステップ 3	UCS-A /org # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次に、Finance という名前のルート組織下の組織を削除し、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope org /
UCS-A /org # delete org Finance
UCS-A /org* # commit-buffer
UCS-A /org #
```